

留学生と日本人チューターは学習支援活動を どのように意味付けているか

岩崎 裕久美

学位取得年月：平成22年3月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】留学生の日本語教育、チューター、ラポールマネジメント、構造構成的質的研究法
【要旨】

本研究は留学生と日本人チューターが学習支援活動をどのように意味づけているのか、構造構成的質的研究法にもとづく修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて、当事者の内的視点から検討した。結果、両者は学習支援活動において、ラポールが重要であるものと捉えており、今後のチューター制度を考える上で関係作りの重要性が示された。また、日本語を学ぶ留学生と日本語教育を学ぶ日本人チューターが学習支援活動を通して相互に学びあっていることが明らかになり、学習目的の異なる両者が協同で学ぶ実践の可能性が示された。さらに、チューター間や留学生の授業担当者とのネットワーク形成が、今後のチューター制度改善の課題のひとつであることが提示された。

(いわさき ゆくみ)

ニューカマー生徒が経験する 学校生活における困難とその対処行動 — 浜松市の調査より —

岡村 佳代

学位取得年月：平成22年3月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】ニューカマー、中学生、高校生、困難、対処行動
【要旨】

日本の学校においてニューカマー生徒を取り巻く問題が顕在化してきている。しかし、これまでニューカマー生徒の視点から困難の実態や傾向を量的調査で検討したものはなく、また、彼らの困難の対処行動に焦点を当てた研究も十分行われていない。そこで本研究では、ニューカマー生徒の学校生活における困難と対処行動を明らかにすることを目的として質問紙調査を実施、分析した。主な結果として、中学生と高校生では、中学生の方が「情報・サポート不足」「部活文化への困惑」の困難度が高く、高校生の方が「学校・教師不信」の困難度が高いことが明らかになった。また、対処行動の多くに日本人ピアとの関係や日本人の異文化理解が関連していることが示された。

(おかむら かよ)